



たけがしま 竹ヶ島

再生
目標

エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境を取り戻すことを目指す。

DATA

エリア：室戸阿南海岸国定公園
所在地：徳島県海部郡海陽町
着手：H15～

竹ヶ島海域公園自然再生協議会

概要：サンゴを中心とした沿岸生態系の回復を図ることを検討。
協議会事務局：海陽町
設立日：H17.9.9
全体構想作成日：H18.3.31
実施計画作成日：H23.7.29
(R2.2 現在)



阿波竹ヶ島海域公園は、徳島県と高知県の県境に位置し、黒潮分岐流の影響を受け透明度が高く、鮮やかな緑色のエダミドリイシの大群集やシコロサンゴなどの生物群集が織りなす海中景観の美しさから、1972年に海域公園に指定されました。

1981年、長期間の異常低温という大きなインパクトによりエダミドリイシが白化し、一旦は分布面積が激減しましたが、その後の調査により、徐々に回復していることが分かってきました。この状況をさらに推進し、海域公園としての資質を取り戻すために、協議会において、全体構想及び実施計画を作成し、これに基づきやま・かわ・うみのエリアにおいて自然再生活動を進めています。



浮泥などによる水の濁り



対象範囲

自然再生の手法

- ▶ エダミドリイシの特性把握 → ①②③
- ▶ 海域公園周辺の環境改善
- ▶ 陸域からの環境負荷の軽減
- ▶ 地域の多様な主体の参加と連携による取り組み → ①②③
- ▶ 海域公園と共生する地域漁業の活性化

再生目標を達成するため、5つの基本方針を設け、エダミドリイシの増殖育成手法（無性生殖・有性生殖）の確立や人工林における適切な間伐支援など流域全体を視野に入れた活動を行います。

②エダミドリイシの移植（無性生殖）

竹ヶ島海域では、平成16年から毎年、地元の小学生が、自治体や漁協と連携して、エダミドリイシの移植作業を行っており、近年では、移植サンゴの経過観察も始めています。これらの取り組みをさらに発展させるために、今後、県内外の様々な方々が参加できるような体制づくりを進めていきます。



地元小学生によるサンゴ移植



海面に漂うサンゴの卵



サンゴの白化現象

①エダミドリイシの採卵・育成（有性生殖）

竹ヶ島海域において、平成18年に徳島県内で初めてエダミドリイシの採卵に成功しました。当初は、高知県の黒潮生物研究所で育成をしていましたが、平成24年からは、地元住民の協力のもと、採卵した卵を地元で育成しています。初期育成したサンゴ幼体は竹ヶ島海域内に移し、中間育成を行っています。



卵から育成し、約7年後のエダミドリイシ（直径約15cm）

③移植観察フィールドの検討

これまでの調査では、主に採卵・育成したサンゴの成長過程をモニタリング調査していますが、今後、海域条件による生育状況の違いを観察し、エダミドリイシの増殖手法を確立することを目的として、移植観察フィールドの設置を検討しています。



移植観察フィールドの設置イメージ